

## 長和町と東京農大生連携「山村再生プロジェクト」

# 丸子修学館高校生 大豆の種まき

長和町と東京農業大学食料環境経済学科、立岩寿一教授研究室の学生らが連携して進める平成24年度「山村再生プロジェクト」に11～13日、上田市の丸子修学館高校農業科目選択生徒が初めて参加した。



## 教育協力協定後初の作業

2月初旬に同校と東京農大が教育協力協定を結んでから最初の協働事業になった。初日は農大生21人と丸子修学館高3年生5人、両校指導者、町職員計32人が参加。長久保「一福処濱屋」で町農業の現状などを町職

班分けして大豆を手際よくまいた

員らが説明し、終了後、長久保本陣の実習ほ場約600㎡で大豆「コウジイラズ」の種まきなどを行った。

丸子修学館高の井澤賢哉君（17）と田中元氣君（18）は「大学生の農業現状などについての深い知識に感心した。集中力もあり見習いたい」。一緒に作業した農大2年の大見亜友さん（20）や1年の石坂幸穂さん（19）は「農作物栽培や農業機械の扱いは、むしろ高校生のほうがよく知っている。学ばせてもらう」と話した。

また農大3年の大森雄次郎さん（21）は「ここで学ぶことを将来的には故郷の熊本の発展に役立てたい」と話していた。

翌日は芹沢ほ場の草刈り実習とヒザ窯建造、大門本沢へのサンショウやキハダなどの植樹を行った。

最終日は芹沢の実習水田で、東京農大主催のカレッジツアー参加者や地域の一般参加者らと一緒に田植えを行い、延べ約170人が参加した。

# 大学と町一体で山村再生へ

東京農業大学 国際食料情報学部 食料環境経済学科と  
長野県丸子修学館高等学校の教育協力協定調印式

東京農業大学

長和町

東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科は、2008年度から長和町で地域住民と協働し、交流を深めながら、遊休荒廃農地の再生・活用などの実習を行ってきたが、11年度から更なる躍進を目指して「山村再生プロジェクト」をスタート。大学と町が一体となって新たな試みを繰り広げている。

昨年4月から始まった同プロジェクトでは、同町の議員らとの意見交換会も食材を活用した、学生の実習。その中から幾つか選定アイデアレシピによる「長和町うまいものコンテスト（決勝進出）」への参加や、

活動始め5年

## 特産品開発など企画続々

### 地元高校と協定し人材育成も

地域の小学生を対象とした森林インストラクターなどが行われた。また、実習を通してまとめた課題や提案、アイデア

目論みながら取り組んでいくことになった。他にも毎月の実習を「のうだい日記」として学生の課題や提案を町広報に掲載している。今年2月には、同学科と丸子修学館高等学校との間で教育協力協定が長和町で締結され、同プロジェクトの「域学連携」がよりステップアップすることとなった。高校生が参入することで、今年度から学生主導型

のプロジェクトとして、年間計画づくりや各実習における説明など「学生が学生に教える」といったリーダーシップ育成も始めた。また、東京農大の「カレーツツアール」として、一般公募による参加者を集め「農大生が長和町を案内する」といった画期的なツアールにも取り組んでおり、今年

年3回を予定している。ツアークには学生と一緒に汗を流しながら山村地域を知ってもらう。秋にはまた学生たちと一緒に収穫し、それを一緒に味わうといったことも予定している。



2月2日に行われた東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科と丸子修学館高等学校の教育協力協定書調印式。(左から)大日方悦夫校長、羽田健一郎長和町長、大久保武学科長